

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

10. ミヤコグサ（マメ科ミヤコグサ属）

Lotus corniculatus L. var. *japonicus* Regel

2014年8月

道ばたや土手などの草地に見られる多年草で、茎はそう生して地を這い、あるいは斜めに立ち上がり長さ15～40 cm、葉とともに無毛です。葉は5小葉で葉軸の先端に3枚、基部に托葉状に2枚つきます。花期は4～10月で、長い柄の先に1～3（4）個の黄色い可愛い花をつけます。豆果は線形で、長さ2～3.5 cmで熟すとねじれて2片に裂け、20個ほどの黒色種子を飛ばします。名前の語源はかつて京都や奈良の都でよく見られたとか、漢名の「脈根草」すなわち「ミヤコングサ」が訛ったものなどの説があります。ミヤコグサは植物体が小さく、種子発芽から開花、種子生産までの生活環が短く、また、栽培が簡単なので、実験植物として優れた特性を持っていることから世界中でモデル植物として研究されています。分布は北海道、本州、四国、九州、琉球、台湾、朝鮮、中国、ヒマラヤです。よく似たヨーロッパ原産のセイヨウミヤコグサ（*Lotus corniculatus* L.）がマメ科牧草として導入されて以来、野生化して分布を拡大しており、在来種のミヤコグサと混生したり、あるいは駆逐して置き換わってしまう現象が生じています。両種の違いはセイヨウミヤコグサが多数の茎を伸ばし50 cmほどになり、葉は毛があり粉白色を帯び、花は1花茎3～7個と多くつけ、全体にやや大柄で毛が生じることで



ミヤコグサ



セイヨウミヤコグサ